

## はじめに

特定領域研究(A)「古典学の再構築」は、平成10年初秋の発足以来、半年を経過し、徐々に形を整えつつある。

10月にはニューズレター第1号が発行された。

年末には、公開シンポジウムが京都において開催され、80名を越える研究者が2日間にわたって講演およびパネルディスカッションを聴講した。古典学の各専門分野の歴史・現況が分野代表者から提示され、こうして全分野を俯瞰することを通じて、分野を越えた共同研究の種々の可能性の所在が確認された。また4人の方の基調講演はそれぞれにたいへん示唆に富むものであった。これらを含めたシンポジウムの詳細は、近々に発行するニューズレター第3号に掲載してお届けする。

本号は、「古典学の再構築」の中核を成す「計画研究」の概要を特集する。もちろん本特定領域の目標は「古典学諸分野の連携」による「近代古典学の方法論的反省」であり、さらにはそれを通じての「日本人のための古典および古典学の創出」である。ここに集めたのは、この目標に向けての現時点における「計画研究」の計画概要であり、将来、本特定領域研究の進捗によって生まれるべき、新しい研究方法、研究成果、古典像の基盤となるものである。

なお、本特定領域研究は、上記「計画研究」とこれを補う「公募研究」から成り、後者は学術審議会における審査を経て、本年4月末に採択結果が文部省から通知される。5月発行のニューズレター4号には、この新たに採択された「公募研究」の概要を紹介する予定である。

本特定領域のホームページが、「情報処理」調整班代表の徳永宗雄氏らの尽力によりインターネット上に開設された。URLは、<http://www.kotengaku.bun.kyoto-u.ac.jp>である。今は試験的にニューズレター第1号抜粋を掲載するのみであるが、おいおい内容を充実させたい。

「古典学の再構築」はようやく軌道に乗りはじめようとしている。ほど遠くない時期に、各調整班研究や日本語訳検討委員会をはじめとする各種委員会のあり方や、『講座古典学』、『古典選集』などの出版企画等を固めてゆきたい。研究班員諸氏のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

平成11年2月28日

領域代表 中谷 英明